

自分自身と世界の灯火となりなさい

神のご意志により、私は、イエスや彼の弟子たちが育ったのと同じ宗教的伝統を持つユダヤ人の家庭に生れ、育ちました。イエスは象徴的に、地上での最後の日々としてユダヤ教の過越の祭を選びました。子どもの頃、その過越の祭の日は、夕食の前に皆で集まって座り、イスラエルの子ども（ユダヤ人）たちがどのようにして束縛の地から脱出したかという物語（旧約聖書『出エジプト記』）を話していたことを覚えています。過越の祭の前夜、イエスと彼の弟子たちも、きっとその聖書の物語を朗読していたに違いありません。それはイエスにとって最後の晩餐の夜であり、弟子たちにとっても大きな意味を持っていたはずです。なぜならイエスは、自分が太古の時代のモーセのように、神の民を救うため、神によって遣わされたメシア（救世主）、あるいはギリシャ語のキリストスである、と彼らに告げていたからです。

過越の祭の物語には、神がいかにして不思議な奇跡とするしを伴って来られたか、いかにしてモーセに神の民を捕らわれの身から荒野へ連れだすよう命じられたかが述べられています。神は、彼らに戒めと律法を授けられました。そして荒野で40年間さまよった後、モーセは人々を約束の地（注：現在のパレスチナ）へと連れて行きました。それは試練と解放の物語です。いつでもあれ人々が困難に遭うとき、神はメシア、すなわち彼らを苦しみから解放できる救世主を遣わす、と預言されています。

私の育った家庭では、この脱出の物語は特別な意味を持っていました。というのは、当時、私たちはナチスドイツのヒトラーの暗黒時代を生き抜いていたからです。私たちはメシアが到来し、救い出してくれるように祈る歌を、崇高な気持ちで歌ったものでした。時おり、旧約聖書か

らダビデ王が歌った胸を締めつけられるような詩篇、「わが神！ わが神！ なにゆえわたしを捨てられるのですか」も歌っていました。しかし、神は捨てられたわけではありません。神は降臨され、人間の姿をまとしてこの地上においでになりました。長い年月の後、バガヴァンの元に来て、暗闇からサイの光の中への長い奇跡的な旅の物語をたくさん聞きました。そして、明らかになったのです。私たちは皆、神によって救われ、約束の地である黄金時代に連れて来られたのだということが。

昨年（1981年）、スワミとお話しをする機会がありました。

「スワミ、私たちは皆、あなたにとっても感謝しています。私たちは迷子になっていましたが、あなたは私たちを見つけてくださいました。そして今、こうしてあなたの元に連れてきてくださいました。神様、あなたは長年私たちが待ち望み、祈り求めてきたメシア（救世主）です」

しかし、ババ様はお答えになりました。

「いやいや、そうではありません。ただ（私が）メシアであるだけではありません。あなた方もまたメシアなのです。あなた方は皆、メシアです。皆さんは自分を束縛から解放する力を持っています。そして、他の人々を解放するよう助ける力も持っています」

**"Do not look for the Saviour outside of you.
Like Moses and Jesus you are also the chosen
of God, the Son of God. And in time you will
even realize that you are wholly Divine, that
you yourself are also God."**

www.theprasanthereporter.org

www.theprasanthereporter.org

スワミのメッセージは明快でした・・・

「あなたの外に救世主を探してはなりません。モーセやイエスのように、あなたもまた神に選ばれた神の息子なのです。やがて時が至れば、あなたは自分が完全に神聖であり、自分自身が神で

あることさえ悟るでしょう」

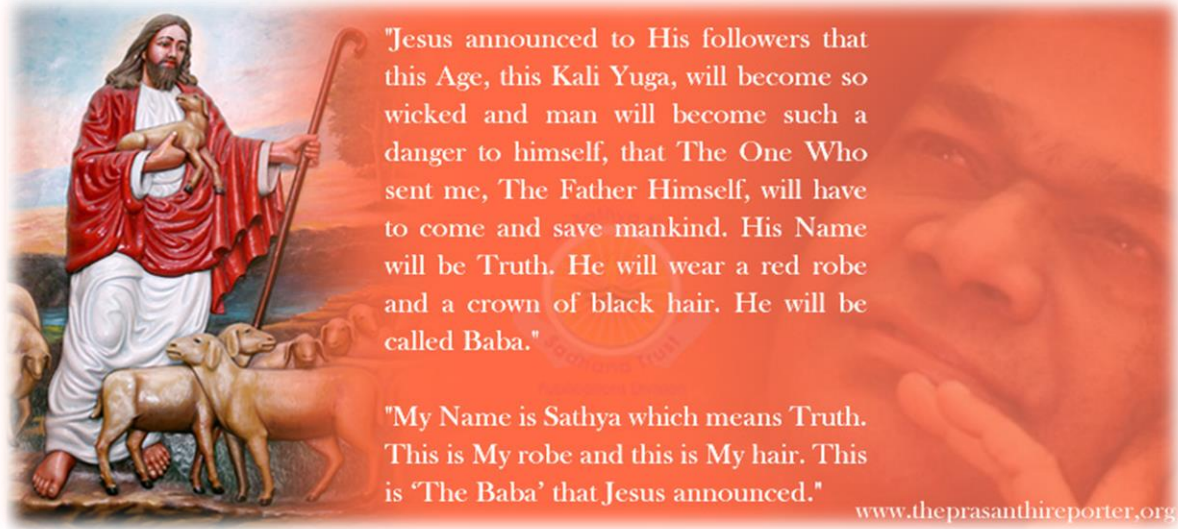
それは、私たち皆がじっくりと深く考えなければならない、力強い、革命的なメッセージです。私たちはアートマ、神と一つであることよりも、個人として自分を考えるよう育てられてきました。私たちは自分を、自分の本質、自分の真実である神の霊として信じることができず、自分を信頼しようとしません。それゆえ何度も生れ変わる中で、下等な性質にのみとどまり、この世で迷子になってしまったのです。しかし、私たちの魂は自由（解放）を求めて泣き叫んでいました。遂にその苦悶と苦悩が耐えがたいものになった時、私たちは救済を求めて祈りました。子どものように、全知全能の天の父なる神に、どうか来て私たちを救い、私たちを愛し、私たちを導き、私たちが神と同じ血から成り、神と同じ聖なる本質から作られ、神に到達するよう運命づけられていると再確認させてください、と叫び求めたのです。神は無限の慈悲と憐れみをもって、その祈りに応えてくださいました。最初に、神は理想的人生の手本として仕えるように、完璧な人、イエスを遣わされました。そして今、神は、私たちを神の家まで導くために降臨なさったのです。

去年の3月、私はバガヴァンにキリストに関するある質問をしようと思いました。しかし、私が尋ね得る前に、バガヴァンは、私たちの多くが感嘆と畏怖の念でかつて聞いたことのある声明を繰り返されました。「イエスは彼の弟子たちに告げました。『この時代、このカリ・ユガは非常に邪悪になり、人間は自らを危険にさらすだろう、それゆえ私を遣わされた御方、父なる神ご自身がおいでになり、人類を救われるに違いない。彼の名は真理であろう。彼は赤いローブを身にまとい、冠のような黒髪をされている。彼はババと呼ばれるであろう』」

そして、このときスワミは付け加えられました。

「私の名前はサティヤであり、それは真理を意味しています。これが私のローブであり、これが私の髪です。これがイエスの告げた『ババ』なのです」

スワミはご自分でおっしゃったように、すべてを愛する父なる神様でした。そう宣言なさったのではありません。スワミはただとても穏やかに、優しく、自然に、父なる神を語らずしてイエスを正しく語ることはできない、という単純な真実を語っておられたのです。その二者は分離できません。サイとイエスは一つです。実際、サイと彼の子どもたち全員は一つなのです。



私たちが靈的に成長して、父なる神がアヴァター（神の化身）として地上に降臨されたのと同じ時代に、人間として生まれてくるという素晴らしい幸運の大きさを理解し始めるとき・・・スワミの不思議、スワミの奇跡、スワミの荘厳さを深く掘り下げていくとき・・・私たちの間に愛の絆を強めるとき・・・スワミの教えに従い、彼の仕事をし、全人類を自分の家族であり同胞であると見なすとき・・・私たちは当然ながら、自らに本来備わった神性の完全な表れへと高められるのです。私たちのプレーマ（愛）とバクティ（帰依）はまっすぐに神の恩寵を呼び起こし、神は私たちの努力を何百倍にも増してくださいます。スワミはおっしゃいます。「自らの灯火となりなさい」と。私たちは父なる神サイにますます近づきながら、一歩ずつ自らの向上に向かって導かれ、最終的には自分たちと神が一つであることを悟るのです。ソーハム；私は神である；父なる神と息子は一つである。

突き詰めれば、それがイエスの歩んだ道であり、私たちに啓示された道だったのです。そしてそれは、私たち自身の道でもあります。その神聖な道をひたむきに歩み、私たちが早く神の蓮華の御足に到達できますように、バガヴァンの祝福を共に祈ろうではありませんか。

出典：

<http://www.theprasanthereporter.org/2015/01/be-a-lamp-unto-yourself-and-to-the-world/>